

# 幼児期における運動遊びに関する調査

群馬県総合教育センター幼児教育センター

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

幼稚園、保育所（園）、認定こども園における運動遊びに関する現状を把握し、幼児期の体力・運動能力の向上を目指した、運動遊びに関する環境の構成や援助の在り方等の啓発資料作成に生かす。

### 2 調査方法

マークシート調査用紙により実施した。（選択肢と自由記述欄で回答）

### 3 調査対象

県内全ての幼稚園、保育所（園）、認定こども園の園長、5歳児担任、4歳児担任、3歳児担任各1名、各園計4名とした。ただし、園の実情に応じて、可能な範囲とした。

### 4 調査の内容

- ・幼児期運動指針に関することについて
- ・幼児の運動遊びに関する保育者の課題意識について
- ・日常の運動遊びの実態（幼児、保育者）について

### 5 調査期間

平成26年9月17日（水）～平成26年10月17日（金）

### 6 回答数

調査対象園 623園

回答園 園長 284園（回答率 45.6%）

担任 281園（回答率 45.1%）

ただし、回答園においても園長、5歳児担任、4歳児担任、3歳児担任の4名全ての回答がそろわない園もあるので、数値に若干のばらつきがある。

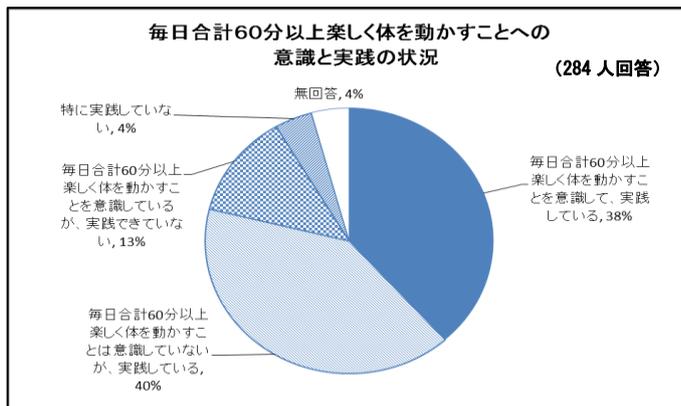
## II 調査結果の概要

### 1 園長向け調査

#### (1) 幼児期運動指針について

○幼児期運動指針で「幼児は毎日合計 60 分以上楽しく体を動かすこと大切」と示されていますが、あなたの園では実践されていますか？

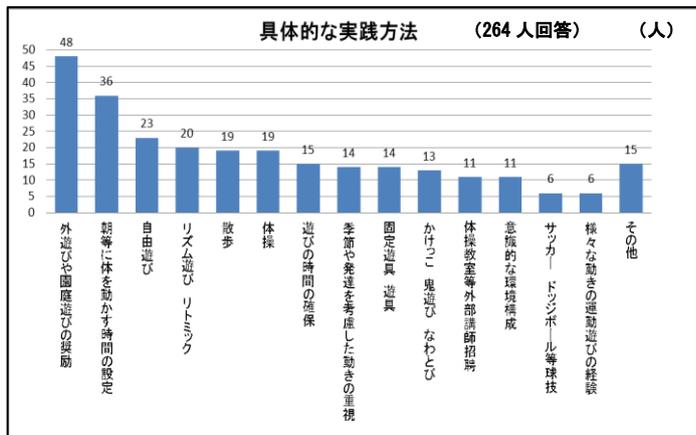
- ①毎日合計 60 分以上楽しく体を動かすことを意識して、実践している
- ②毎日合計 60 分以上楽しく体を動かすことは意識していないが、実践している
- ③毎日合計 60 分以上楽しく体を動かすことを意識しているが、実践できていない
- ④特に実践していない



園長の「合計 60 分以上楽しく体を動かすこと、への意識と実践について」の回答では、「意識して実践している」が 38%、「意識していないが実践している」が 40%と、実践している割合は約 80%となっている。

○毎日合計 60 分以上楽しく体を動かすことを実践している園の方にお聞きします。

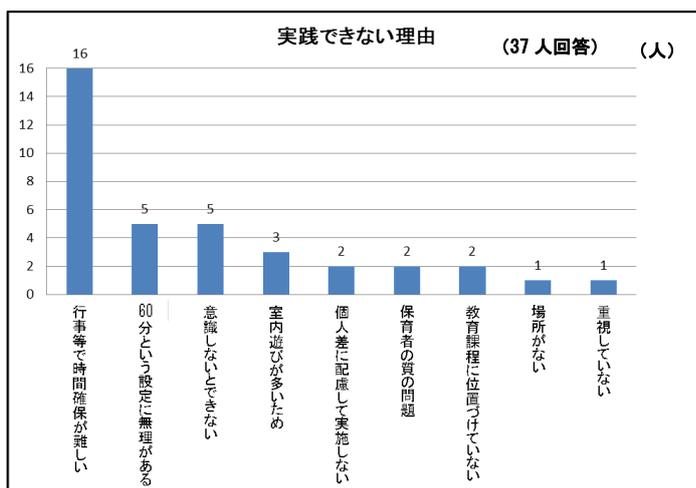
具体的にどのように実践されていますか？



具体的な実践の方法は、「外遊びや園庭遊びの奨励」が最も多く、次いで「遊びの時間を意図的に設定している」、「自由遊び」と続いており、遊びの中で自然と体を動かすことを意識しているのがわかる。また、「その他」の中には「散歩」、「雑巾がけ」等もあり幼児の「生活全体の中」という意識も見られた。

○毎日合計 60 分以上楽しく体を動かすことを実践していない園の方にお聞きします。

実践できない理由として考えられることは何ですか？ (自由記述)

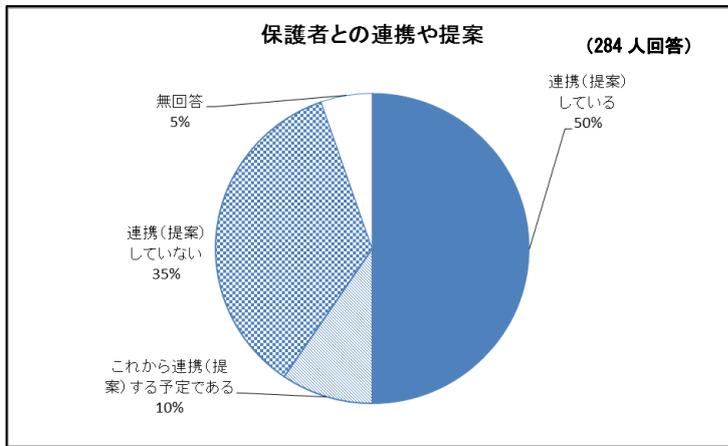


実践できない理由としては、「行事等で時間の確保が難しい」、「60分という設定に無理がある」など時間確保や時間設定の難しさについての記述が多かった。

## (2) 保護者・家庭との連携について

○幼児期運動指針で「保護者と連携し、共に育てる」、「保護者の方に向けた提案」について触れていますが、あなたの園では、運動遊びについて保護者と連携していることや、何か提案していることはありますか？

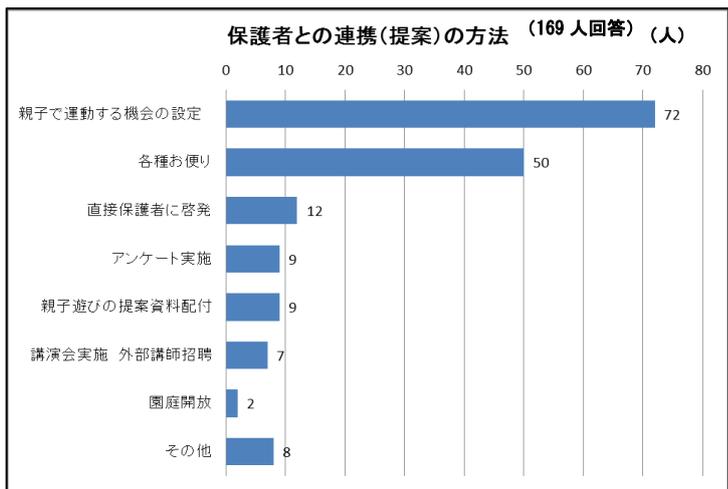
- ①連携（提案）している    ②これから連携（提案）する予定である    ③連携（提案）していない



運動遊びについて保護者と連携したり、何か提案したりしている園(予定も含む)は60%だった。一方、まだ連携や提案をしていない園も35%と、全体の1/3以上となっている。

○保護者と連携や、保護者向けに提案している(する予定の)園の方にお聞きします。

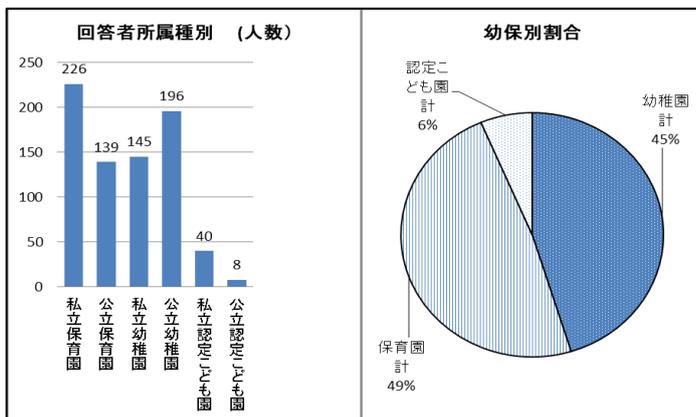
どのような方法で連携(提案)しましたか？(自由記述)



実際の連携(提案)方法で最も多いのは、「園行事等で親子一緒に体を動かす」というものだった。また、園便り等の各種お便りでの提案も多かった。外部講師招聘や講演会実施、アンケート実施等大がかりに取り組んでいる園もあった。

## 2 担任向け調査

### (1) 回答者の所属

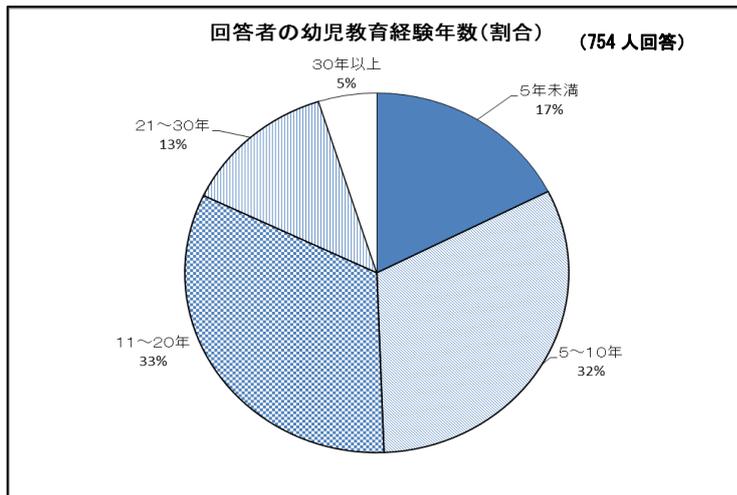


所属別の回答者数(担任)は、

私立保育所	226人
公立保育所	139人
私立幼稚園	145人
公立幼稚園	196人
私立認定こども園	40人
公立認定こども園	8人

と、様々な園からの回答があった。

## (2) 回答者の幼児教育経験年数



回答者の幼児教育経験年数の割合は、

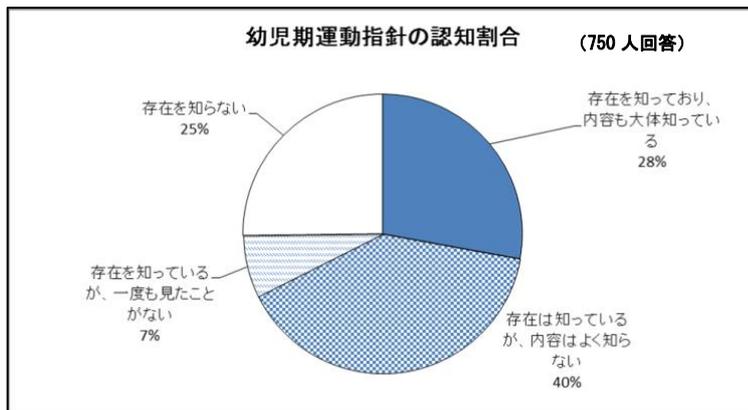
5年未満	17%
5年～10年	32%
11年～20年	33%
21年～30年	13%
30年以上	5%

と、様々な経験年数の方から回答が得られた。

## (3) 幼児期運動指針について

○あなたは幼児期運動指針について知っていますか？

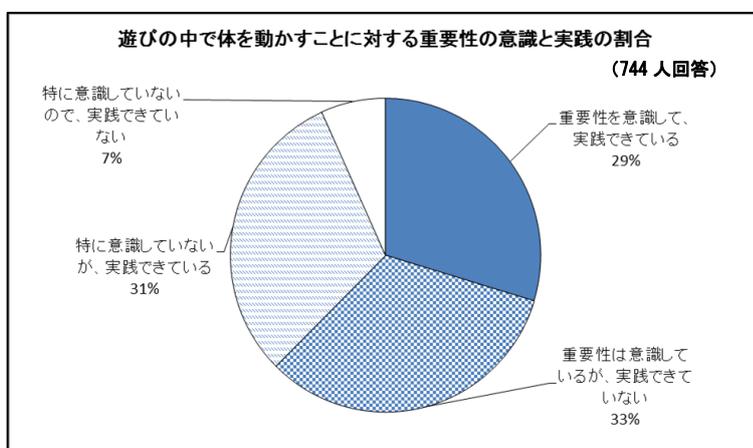
- ①存在を知っており、内容も大体知っている      ②存在は知っているが、内容はよく知らない  
 ③存在を知っているが、一度も見たことがない      ④存在を知らない



存在認知割合は約 75%だが、内容認知割合は 30%に達していない。存在すら知らない割合も 25%いる。存在、内容共に再度の啓発が必要である。特に割合の最も多い「存在は知っているが、内容はよく知らない」層に対して、ポイントを絞った内容の説明が必要である。

○幼児期運動指針ガイドブックで「いろいろな遊びの中で十分に体を動かすことができるように」と提案されていますが、その重要性を意識して、十分に体を動かす遊びを保育に取り入れていますか？

- ①重要性を意識して、実践できている      ②重要性は意識しているが、実践できていない  
 ③特に意識していないが、実践できている      ④特に意識していないので、実践できていない



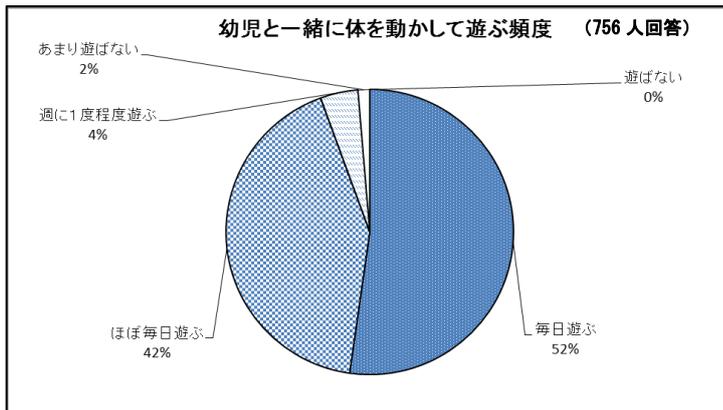
「いろいろな遊びの中で十分に体を動かすこと」の重要性を意識して保育に取り組んでいる保育者の割合は約 60%だが、実際に十分に体を動かす遊びを保育に取り入れている保育者はその約半分程度である。

「重要性は意識しているが、実践できていない」保育者も33%おり、理由をさぐる必要がある。

#### (4) 日常の運動遊びについて

○あなたは、幼児と一緒に体を動かして遊んでいますか？

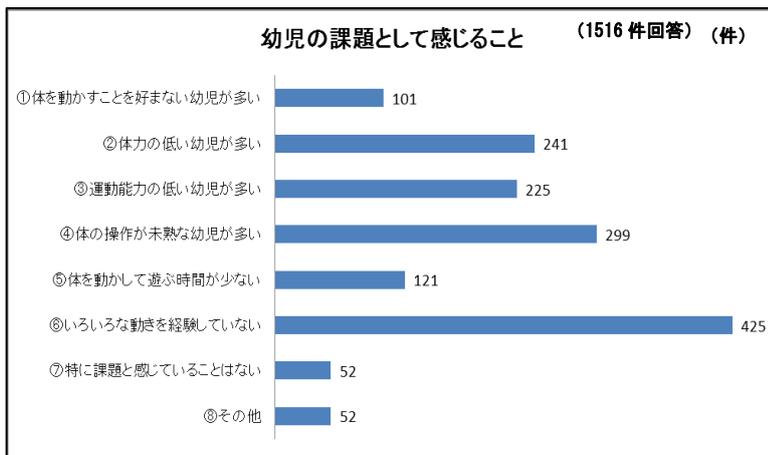
- ①毎日遊んでいる                      ②ほぼ毎日遊んでいる                      ③週に1度程度遊んでいる  
 ④あまり遊んでいない                      ⑤遊ばない



保育者の約95%が毎日、または、ほぼ毎日幼児と一緒に体を動かして遊んでおり、幼児と一緒に体を動かしながら保育をする意識は非常に高い。

○あなたが担任している幼児を見て、課題として感じることはどんなことですか？個人的な感想で結構ですのでお答えください（複数回答可）

- ①体を動かすことを好まない幼児が多い                      ②体力の低い幼児が多い  
 ③運動能力の低い幼児が多い                      ④体の操作が未熟な幼児が多い  
 ⑤体を動かして遊ぶ時間が少ない                      ⑥いろいろな動きを経験していない  
 ⑦特に課題と感じることはない                      ⑧その他

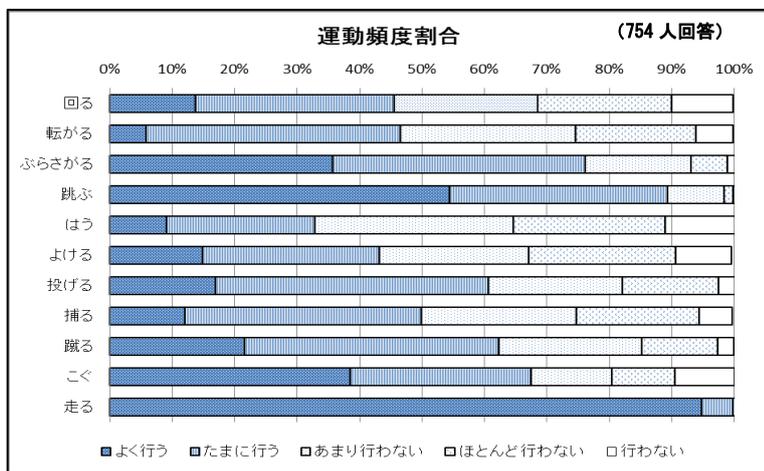


幼児の運動面での課題として、保育者が最も多く挙げたのは「いろいろな動きを経験していない」である。次いで「体の操作が未熟な幼児が多い」であった。幼児は、様々な動きを経験しながら、自分の体を上手に操作できるようになることから、この2つの関連は強い。

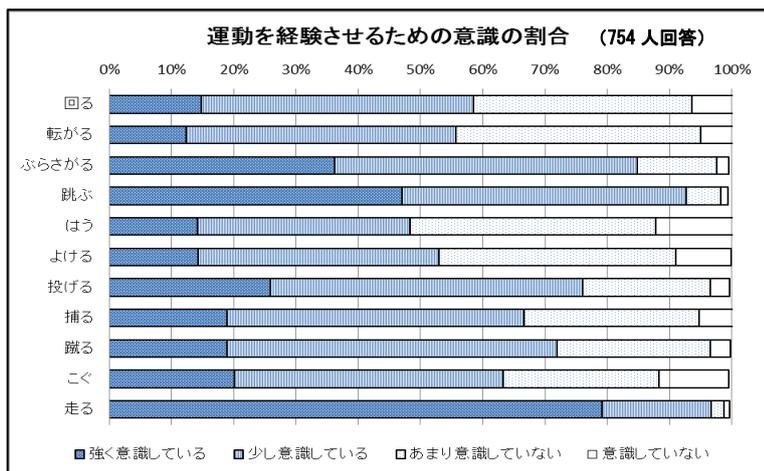
逆に「体を動かすことを好まない

幼児が多い」、「体を動かして遊ぶ時間が少ない」と感じている保育者は少なかった。このことから、幼児の多くは体を動かすことを好み、体を動かして遊んでいることが読み取れる。

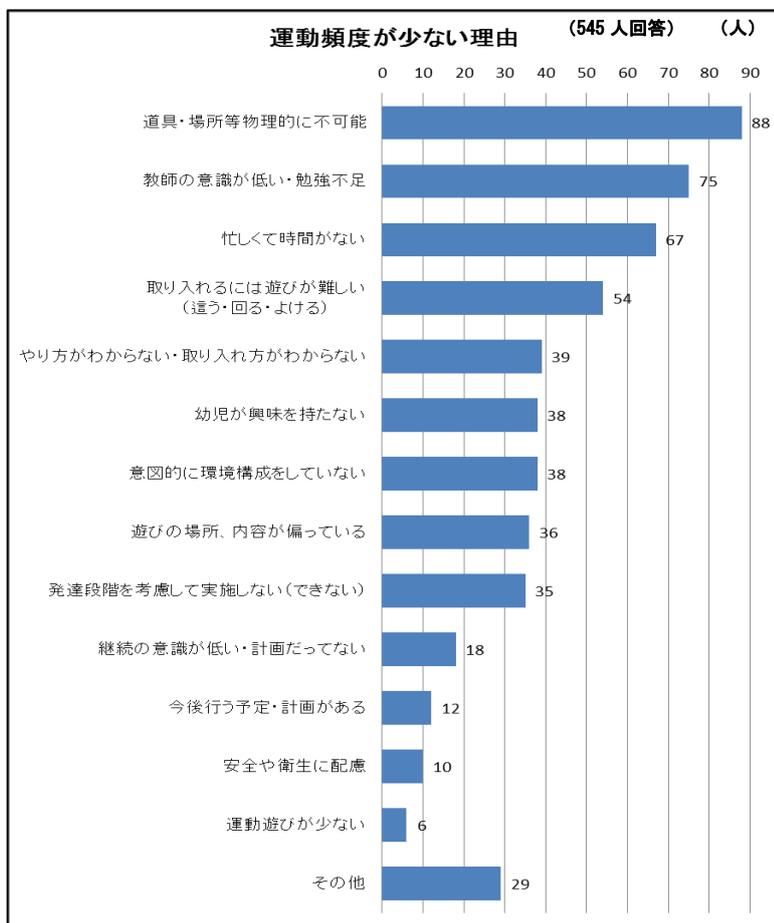




日常生活や遊びのなかで幼児が行っている具体的な動きの頻度を調査したところ、多い動きが「走る」「跳ぶ」「ぶらさがる」で、少ない動きが「はう」「よける」「転がる」「回る」であった。同時にこれらの動きに対する保育者の意識を調査したところ、経験させる意識が高い動きは「走る」「跳ぶ」「ぶらさがる」で、意識の低い動きが「はう」「よける」「回る」「転がる」となっており、幼児の運動頻度と同じであった。



○「あまり行わない」「ほとんど行わない」「行わない」とお答えになった動きは、なぜ頻度が少ないのでしょうか？考えられる理由をご記入ください。(自由記述)

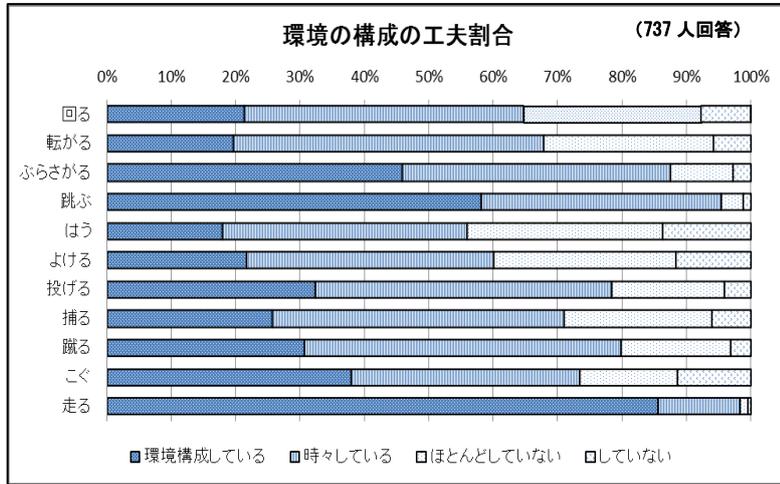


運動頻度が少ない理由を調査結果では、「遊具や場所等物理的に不可能である」と「保育者の意識低い、保育者の勉強不足」が上位を占めた。「遊具や場所等物理的に不可能である」では、広い園庭やマット、三輪車等がないので、経験させることができないという意見が目立った。また、「保育者の意識が低い・勉強不足」では、自分の意識が低いことや、研修の経験が少ないことを反省している様子が見られた。そのほかには「忙しくて時間がない」や「発達段階への考慮」なども目立った。

○ 以下の各動きを幼児に経験させるために、意図的に環境の構成を工夫しているかについてお答えください。

(回る 転がる ぶらさがる 跳ぶ はう よける 投げる 捕る 蹴る こぐ 走る)

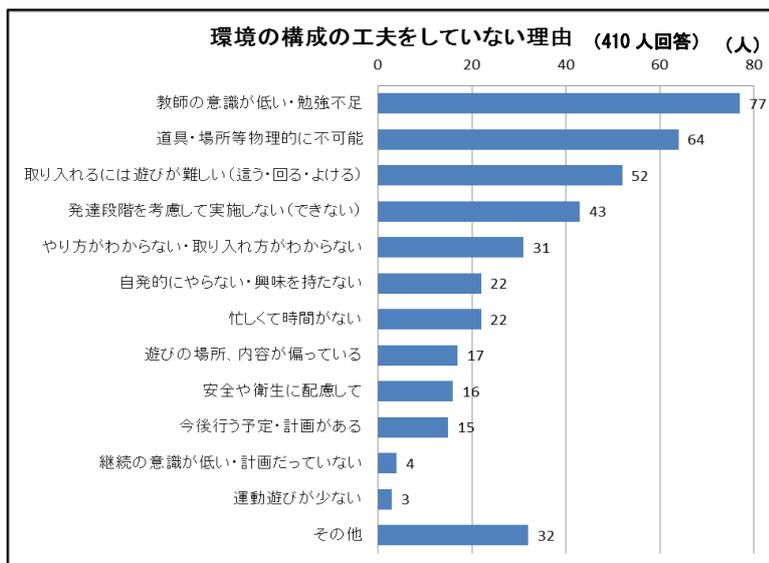
①している ②時々している ③ほとんどしていない ④していない



各動きに対して意図的な環境の構成を工夫しているか、についての調査結果をみると、工夫している動きが「走る」「跳ぶ」「ぶらさがる」で、工夫の少ない動きが「はう」「よける」「回る」であった。

これは、日常生活や遊びのなかで幼児が行っている具体的な動きの頻度と同様の傾向である。このことから、環境構成の工夫と幼児の運動頻度の関係は非常に強いことがわかる。

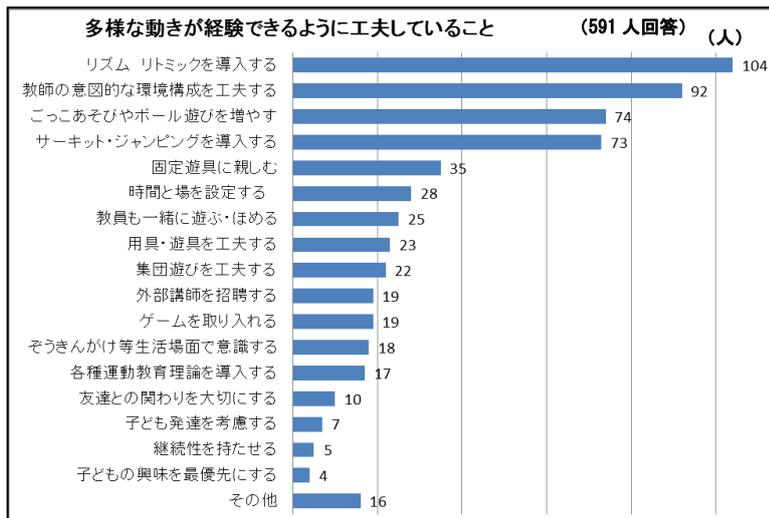
○ 「ほとんどしていない」「していない」とお答えになった方にお聞きします。考えられる理由をご記入ください。(自由記述)



環境の構成の工夫をしていない理由を調査した結果を見ると、運動頻度が少ない理由を調査した結果とほぼ同様の傾向が見られ、「遊具や場所等物理的に不可能である」と「保育者の意識が低い・勉強不足」が上位を占めた。

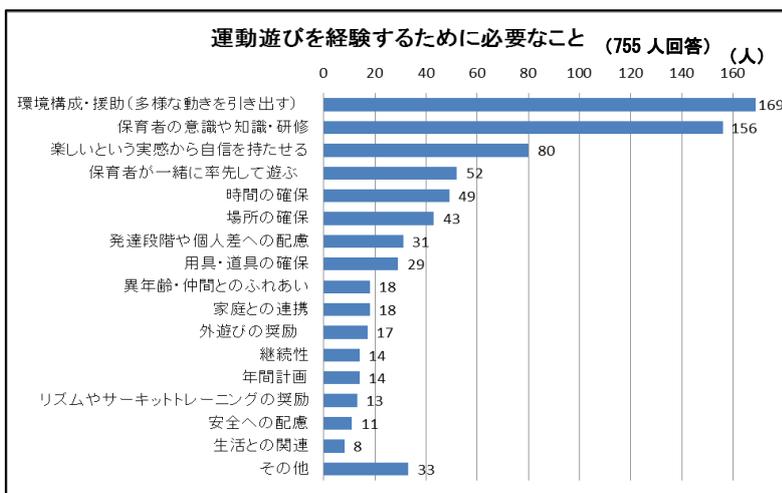
「忙しくて時間がない」や「発達段階への考慮」なども同様に目立った。

○多様な動きができるよう工夫している遊びや環境の構成、援助等がありましたら、ご記入ください。（自由記述）



保育者が、幼児に多様な動きを経験させるために工夫している遊びや環境構成として挙げたもので最も多いのは、「リズムやリトミックを導入する」だった。次が「教師の意図的な環境構成を工夫する」で、「ごっこ遊びやボール遊びを増やす」の順で続いた。また、「外部講師を招聘する」や「各種運動教育理論を導入」している園があったり、「生活場面で意識をする」「異年齢児とのかかわり」などを挙げている園もあった。

○幼児が、多様な動きを取り入れた運動遊びを経験するためには何が必要だと思いますか。日頃思っていることや考えていることなどをご記入ください。



幼児が多様な動きを取り入れた運動遊びを経験するためには、「多様な動きを引き出す保育者の援助・環境構成」が必要であると考えている保育者が最も多かった。それに続いて、「保育者の知識、保育者の意識や知識・研修」が続いており、保育者自身の問題として捉えていることがわかる。

### Ⅲ まとめ

調査の結果を、今後の幼児教育センターの研修や園での保育に生かすために、次のように考え実施していく。

#### 1 幼児期運動指針について

- 「あることは知っているが、内容はよく知らない」保育者が多いので、内容についての啓発を行う必要がある。
- 平成27年度幼児教育研修講座において、「幼児期運動指針について」学ぶ機会を設定する。また、平成27年度夕やけ保育研修会においても同様に「幼児期運動指針について」学ぶ機会を複数回設定する。

#### 2 日常の運動遊びについて

- 園長に向けた「合計 60 分以上楽しく体を動かすこと、への意識と実践について」の調査では、実践している割合が約80%と高かった。しかし、保育者は、幼児の運動面における課題として「いろいろな動きを経験していない」と感じていることから、楽しさの中に「多様な運動の経験」「巧みな動きの経験」を意識した保育実践を進める必要がある。
- 平成27年度幼児教育研修講座において、楽しさの中に「多様な運動の経験」「巧みな動きの経験」を意識した具体的な保育実践例について紹介したり、学んだりする機会を設定する。
- 幼児の運動頻度並びに保育者の意識が共に低い、「はう」「よける」「回る」「転がる」の動きに関して、具体的な保育者の援助や環境構成の具体例を示す必要がある。
- 「保育者の知識や研修が必要である」と感じている保育者が多いので、研修の場を設ける必要がある。
- 平成27年度幼児教育研修講座において、「はう」「よける」「回る」「転がる」の動きに関して、保育者の援助や環境構成の具体例を研修できるようにする。
- 「運動遊びリーフレット」を発行し、「はう」「よける」「回る」「転がる」の動きに関して、保育者の援助や環境構成の具体例を紹介する。

#### 3 保護者・家庭との連携

- 実際に保護者と連携、協力している園は半数に過ぎないので、園と保護者が連携、協力できるようにサポートしていく必要がある。
- 保護者と連携、協力する方法としては、「園行事等で親子一緒に体を動かす」「各種お便りでの提案」が多かったので、保護者と連携、協力する方法の具体例を示す必要がある。
- 「運動遊びリーフレット」の中で、「家庭でもできる、ちょっとした運動遊び」についても同時に紹介する。